

新・イギリス公共図書館史

社会的・知的文脈1850-1914

(阪南大学翻訳叢書22) アリステア・ブラック 著／藤野寛之 翻訳・解説

大学・短大
司書課程の
講義テキストに
最適!

A5・510頁 定価(本体10,000円+税)
ISBN978-4-8169-2302-9 2011年2月刊行

【市民・労働者のための社会施設として創られた“公共図書館”とは!】

- 図書館法成立(1850年)から第一次世界大戦勃発まで、公共図書館運動の原点となる時代のイギリス公共図書館史に焦点をあて、功利主義などの思想的背景、建築史への影響など幅広い視点から実証的に叙述する研究書です。
- 産業革命を経て市民・労働者のための社会施設として創られた“公共図書館”の思想から、今日の公共図書館の存在意義にまで迫ります。
- 利用者層・利用冊数などの資料、人名・地名などから引ける「索引」、「訳者解説」付き。

訳者プロフィール **藤野寛之** ふじのひろゆき

1969年東京都生まれ。阪南大学国際コミュニケーション学部准教授。研究分野は欧米図書館史、メディア情報の比較など。共著書に『図書館を育てた人々:イギリス篇』(日本図書館協会)、訳書に『ペニー・レイト:イギリス公共図書館史の諸相1850-1950』(金沢文圃閣)など。

目次

序文	「着生的」機関
第一章	分析のためのモデルを求めて
第二章	公共図書館の理想の基盤
第三章	功利主義のはずみ車
第四章	主たる先駆者:ユーワートとエドワーズ
第五章	文化、物質主義と1849年の特別委員会:美術の文化的物質主義
第六章	経済的関心:「有用」知識と政治経済学
第七章	理想主義のはずみ車
第八章	文化的関心:独善的中産階級の模索
第九章	図書館員:その社会的任務と規制の理論
第十章	建築:デザインの社会的要因
第十一章	結論
付録/文書源/注記/索引	
解説:「アリステア・ブラックの図書館史研究」 藤野寛之 訳者あとがき	

第二章 公共図書館の理想の基盤

内容見本

無料で公衆に開かれる図書館の設立は1850年にあつては斬新なアイデアではなかつた。1850年の「公共図書館法」(および、それに先行した特別委員会の仕事)は、しばしば語られてきたごとく、偉大な転機として見なすべきではない¹⁾。公共図書館の思想は、1820年代、1830年代、1840年代に何度となく取りあげられていたものであり、以下に述べられる1849-50年の出来事は、出発点であるとともに終着点であつた²⁾。まったくの無料の図書館サービスの提案は、一夜にして現れたわけではなく、それは、職工学校であろうとコーヒーハウス、地域の貸出図書館、あるいは、チャーチストたちの読書室であろうと、こうした様々な社会・政治・教育の機関がその会員たちや賛同者たちにたいして作りあげてきた独立の図書館設置という健全な伝統を背景として出現してきたものである³⁾。


先駆者たちと初期の提言

こうした独立の施設は、活力がありながらも、19世紀前半には、普通のもしくはその他の無料文献への強い要望が満たされないままに存在していた。相当量の無料文献が提供されていなかったことで、貧困層は特に不利

2019.3

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名	注文書	新・イギリス公共図書館史 社会的・知的文脈1850-1914 (阪南大学翻訳叢書22) 定価(本体10,000円+税) ISBN978-4-8169-2302-9	冊
		 9784816923029	